



益田 中

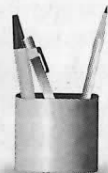
小・中・高校生から専門学校生、大学生まで、若い人たちの意見を集めるコーナー「ヤングこだま」欄です。今回は益田市立益田中学校2年生の皆さんの作品です。学校、学級単位での投稿を募っています。投稿希望の学校は「ヤングこだま」係・電話08552(62)38805までご連絡ください。

経済力で戦国時代生き抜く

2年 大石 伊杏

益田氏について学習して、「益田って実はすごいんだな」って思いました。特に戦国時代は下克上の世の中だったので、大内氏、陶氏、毛利氏と、益田氏はいろんな武将の配下に加わっていて、その中を生き抜いていたことがすごいなと思いました。

強くしていました。「益田って歴史とかがあまりないんじゃないか」って思っていたけど、



実際にはとてもすてきな歴史があることを、この2時間で初めて知りました。

交易で財力を蓄え生き残る

2年 佐々井祥太

社会科の時間に、益田氏について学習しました。中世の戦国時代に、益田氏がさまざまな地域と関係を持っていたことが分かりました。

特に山口を本拠地とする豪族大内氏とは良好な関係を保っていました

が、下克上によって大内氏は陶氏に討たれてしまい、その陶氏もやがて毛利氏に滅ぼされてしまいます。こういう状況の中で、益田氏が毛利氏へ服属したことがとても印象に残っています。

益田氏は、毛利氏へ多額の贈り物を贈り、毛利

懸命に生き残り策練り活路

2年 内田 悠人

益田の歴史とか、最初は考えたこともなかったけど、今回学習してよく知ることができました。

益田氏はもともと山口の戦国大名・大内氏に従っていましたが、大内氏は家臣の陶晴賢に討たれてしまいました。益田氏は陶氏と親せきだったため、後に陶氏が毛利氏に滅ぼされるとピンチになりました。

しかし、さまざまな貢ぎ物を毛利氏に贈ること



氏の配下になりますが、虎皮や昆布を贈ったことはすごいと思いました。虎皮は朝鮮半島から、対馬の宗氏などと交流する中で手に入れている可能性がありました。また、昆布は蝦夷地から十三湊(青森県)、さらには小浜へと運ばれ、益田氏もこの小浜で手に入れたようでした。

益田氏は、毛利氏へ多額の贈り物を贈り、毛利

「益田ってすごい」と再認識

2年 福原 柊子

で、益田氏はその後を生き残ってきたからすごいなと思いました。現在の価値にして現金だけで1億円あまりを贈ったこととすごいと思ったし、それにプラスして馬とか、刀とかも贈っていたこともすごいと思いました。



ただそれくらいの財力を持って、もし毛利氏と

戦っていたとしたら、もう少し歴史が変わっていたかもしれないと思いました。益田からの交易品として、木材や銅があったことも初めて知ることができたのでよかったです。益田はすごいと思いました。

益田氏の歴史を学んで

をするほど、益田氏の實力はすごかったと思うし、贈られる毛利氏は強かったんだと思いました。